



くらしと税金のつながりをとらえる

酒田市立広野小学校教諭 6学年 長谷川 伸
実施年月日：令和元年12月23・25日 17名

1 実践計画・指導のねらい

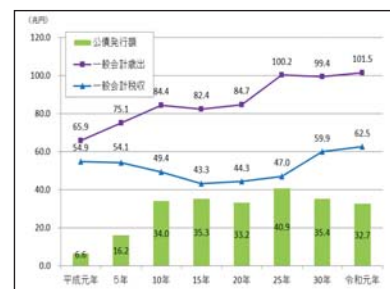
本実践は「震災復興の願いを実現する政治」の単元に位置づけ、「震災支援や復旧・復興に必要なお金はどのように用意したのか？」という疑問を切り口にした。子どもたちからは「税金を使った。」と声がすぐに上がったので、税金について知っていることをたずねた。すると、昨年10月に消費税率が上がったことを受けて、「消費税が10%になって値段が高くなった。」「どうして上げなければならなかったのか。」などの声が上がリ、税金への意識が高まっていることが分かったが、税金に対する正しい知識を持っている子どもは少なく、また、良いイメージをもっているとは言えない状況だった。本実践を通して、税金が自分たちの暮らしと深く関わっていることや暮らしを豊かにするために使われていることを理解し、子どもたち一人一人がこれからの税金に対する考えをしっかりと持つことができるようになることをねらいとして学習を構成した。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・税金の種類や使われ方などを知り、税金についての理解を深める。 	○ 税金にはどのようなものがあるか。 ● 「所得税」「住民税」「自動車税」など←直接税 ● 「消費税」「たばこ税」「酒税」「入湯税」など←間接税 ○ 税金はどのようなことに使われているか。（副教材を活用） ● 消防、救急、警察←安全を守るため ● 教科書、先生の給料、学校建築←教育を平等に受けるため ● 年金、予防接種、医療←健康に暮らすため ● 道路、信号、水道、ごみ処理←快適に暮らすため ○ 税金って何？ ● 税金はわたし達が暮らしていくために無くてはならないもの。 ● わたし達が安全に幸せに暮らすために必要なもの。 ● みんなで支払って、みんなのために大切にされるもの。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」 国税庁 HP 税の学習コーナー（学習・入門編）
2	・これからの税金について考える。 	○ なぜ、消費税率を上げなければならなかったのだろうか？（資料から日本の財政状況を読み取る活動） ● 国に必要な金額に対して税金だけでは足りない。 ● 高齢化や人口減少が続くと、税収が少なくなるのでは。 ● 外国には消費税率が日本より高い国がある。 ● 高齢者を支えるための若い世代の負担が大きくなっていく。 ○ 2050年までの消費税20%に賛成か、反対か？ ● 値段が高くなるけれど、日本が崩れないようにするために仕方がない。 ● 反対。生活が厳しくなり、物を買えなくなる。すると、消費税から入ってくる税金も増えないと思う。何かを楽にしてもらわないと反対。 □使用教材名 国税庁 HP 税の学習コーナー（学習・発展編・応用編） 日本経済新聞（2019年11月25日「日本の消費税 IMFが報告書」）

【指導のポイント】 <<1時間目>>

学習の前時に、税金について家族に聞いてくる課題を課しておき、児童から税金の種類がたくさん出るようにした。そして児童から出た税金を「直接税」と「間接税」に分類する課程で、税金の仕組みを理解することができるようにした。



【指導のポイント】 <<2時間目>>

単に消費税率の数字の上昇だけにとらわれないように、前時に学習した税金の役割や今後の日本の様子、世界との比較などの資料を提示し、判断の材料となるようにした。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 今回の実践を行う上で、国税庁のHPは大変有効だった。授業のねらいに適した資料が豊富で、授業づくりに大いに役立った。
- ◎ 児童は税金について、自分達の生活あらゆる場面を支えているもの、みんなで真剣に考えて行かなければならないものという認識を持つことができた。
- ◎ 租税教育は児童の身近なお金に関わる学習であり、児童が興味を持ちやすく、身近な題材を基に社会のしくみを学ぶことができる。この学習は、社会の形成者となるための価値判断や意思決定を身に付けるよい機会となると思う。
- ◆ 今回は、教師側が準備した資料と課題で知識を獲得し、考える授業を行った。これを課題追究型の授業にするには、授業時数を確保するための工夫と児童の実態に沿ったより深い教材研究が必要だ。